

経営改善目標（目標期間：令和3年度～令和7年度）

(法人名)

公益財団法人神奈川文学振興会

1 今後の法人の使命・担うべき役割

近代文学館は、財団の設立趣意書にもある通り貴重な文化遺産である近代文学資料を散逸から守り、文学の多面的な魅力を広く紹介して様々な文学や芸術の振興を図るための総合的な文学館として設置された。今後も設置目的に沿い、IT化、キャッシュレス化など技術革新への対応も進めつつ、文化芸術を通じてゆとりと潤いを実感できる心豊かな県民生活を実現するため、幅広い層の県民に文学の魅力を広く伝えていくという館の使命を果たし積極的な事業展開を図っていききたい。

(1) 開かれた文学館運営

全ての層に開かれた文学館とするため、人気作家のみに偏ることなく、各世代の関心に合わせたバランスの取れた展示テーマを設定し、更に児童生徒から専門家まで広く受け入れられる展覧会、イベント等の開催を目指したい。

(2) 公益性と収益性両面の向上

今後も特別展、企画展とその関連行事を春期～秋期に集中して開催することで利用者数の増加と利用料金収入・事業収入の確保に努め、同時に経費節減を図って安定した事業運営を実施していききたい。冬期は所蔵資料を中心とした当館ならではの企画展等を開催し、文学の裾野を拓げるために必要な公益性の高い事業を展開し、収支バランスに配慮しつつ事業内容の充実を図りたい。

また、県有建築物としての神奈川近代文学館施設の保全に対応し、現場からの視点や蓄積した情報を県関係部署と共有するとともに、必要に応じ工事期間中の休館等の措置を講じたい。

(3) 文字・活字文化振興事業の充実

若年層の読書離れを防ぐため国及び県の施策に則った文字・活字文化振興事業を積極的に展開し、若年層を中心とした読書活動推進事業の充実を図り、文学の裾野を県民に拓げるための一般参加型のイベント等を開催する予定である。文字・活字文化振興の一環として、県教育委員会の実施する子ども読書活動推進計画の効果的な実施のため積極的に活動する。こうした活動を通じて文学館の設置目的に沿った運営を実践し、法人の使命を果たしていききたい。

また、感染症拡大防止のための休館中に新たな取組として、過去の講演会音声の一部や、展覧会で作成した中島敦、獅子文六のフォトムービー、横浜・山手周辺文学散歩マップなどの公開を始めた。今後の社会情勢の変化に対応し、様々な利用形態を想定したコンテンツの提供を行っていききたい。

(4) 地域の教育文化施設、県内教育機関等との連携の強化

県立歴史博物館など近隣の博物館又は近郊の類似施設との連携により、夏の子ども向けスタンプラリー等を実施し、山手地区の文化施設との連携では山手芸術祭や、なか区ブックフェスタに参加している。展覧会やイベントの共催等を通じて地域との結びつきを深めていききたい。また、中・高・大学など教育機関や県教育委員会等との連携を深め、県内図書館、学校図書室等へのパネル文学展の巡回、子ども読書推進フォーラムの共催等により、県図書館協会や県高等学校文化連盟とも連携を深め、教育文化機関と事業協力することで活動の幅を広げていききたい。

(5) 専門性の充実等

資料保存と利用促進双方の観点から肉筆資料を中心に画像アーカイブ化を継続して行っていく。ホームページ上でも閲覧可能な「夏目漱石デジタル文学館」に加え、閲覧対応のための稀覯雑誌のデジタル化など、今後も館蔵資料アーカイブの充実を図る予定である。

2 県が法人に期待する役割

県では、文化芸術振興条例において、文学を含んだ文化芸術の振興や県民の文化芸術活動の充実を図ることとしており、文学の振興に当たっては、当法人を本県における文学振興の中心的な組織として位置付けている。今後も当法人の設立目的である県にゆかりのある近代文学及び児童文学に関する資料を中心に各種資料の収集、保存、展示等の役割を担っていくことを期待している。

また、当法人がこれまでの文学館運営で培ってきた事業ノウハウと人的ネットワークをもとに、今後も県民が文学に親しむ機会をより充実させるとともに、教育機関との連携や大学などの研究機関、民間企業との共催等を通じ、コロナ禍においても引き続き文化活動の拠点として、更なる成長を期待している。

3 法人運営における現状の課題

(1) 支援組織等の運営について

・「神奈川近代文学館友の会」

会員特典の増加、家族会員制度の充実、限定行事の開催、入会キャンペーンの実施などの効果により、おおむね約1,000人の会員数を維持してきた。会員数は年間の特別展、企画展の内容に左右される面があるが、同時に継続会員の年齢が上がり、外出が難しくなったという理由で退会される方が毎年一定数いる。今後も「友の会」の特典の強化や若年層を対象とした勧誘キャンペーン等により会員数の安定化を図りたい。

・「神奈川近代文学館懇話会」

「神奈川近代文学館懇話会」は公益財団法人移行による理事会、評議員会の再編に伴い、旧法人から受け継いだ文学者の幅広い人脈により、文学館運営に必要な専門分野のサポートを行う機関として十全な機能を果たしている。公益財団法人への移行時にスリム化を図った理事会、評議員会の能力を補完するための人的ネットワーク又は支援組織として今後も存在の重要性が増すものと考えている。

(2) 若年層による文学館利用の拡大について

指定管理第3期では、中高生から20代の若年層での観覧者増を目指し、コミックスなど他ジャンルとのコラボレーションにより与謝野晶子展、中島敦展で大きな成果を上げた。また、学校図書館へのパネル文学展巡回や国語科教員等を対象とした文学館活用研修会などを実施したが、中高生による文学館の団体見学は伸び悩んでいる。今後も若年層の来館に結びつく宣伝広報、学校連携、授業等での館利用の方策を一層工夫していく必要がある。

毎夏開催している児童文学展は、平成27年度の「佐野洋子展」（15,197人）、平成29年度の「角野栄子展」（9,111人）、平成30年度の「石井桃子展」（9,639人）、令和元年度の「西巻茅子展」（13,421人）などで多数の親子連れの観覧があった。関連する「かなぶんキッズクラブ」事業を中心に子ども向けイベントを更に充実させ、文学館への親しみを持ってもらえるように努めたい。

(3) 施設設備の維持管理について

近代文学館は建築後36年を経過し、施設設備の多くの部分で更新が必要な時期を迎えている。県営繕工事等の円滑な実施のため、現場からの視点や蓄積した情報を共有し利用者の安全を最優先に、老朽化したエレベータ設備等の更新を求めている。特に、貴重な所蔵資料の保存環境を最良な状態に保つために不可欠である空調関連機器等については、県所管課等との適切な情報の共有により、営繕工事の早期実施を求めている。

(4) 財源の安定について

公益性に十分配慮しながら、利用料金収入及び事業収入（指定管理事業）を増収に導くことができるような、県民にとって魅力的な事業を今後も継続的に展開していきたい。また、当館の設置目的に従い、利用者の読書意欲を増進し、子どもたちの読書活動を推進するため、書籍や絵本、関連グッズなどの受託販売等を利用者ニーズに合わせて多角的に行い、法人の財政面での安定を図りたい。

4 経営改善目標

【県民サービスの向上等】

（総括的目標）

文化芸術により、真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな県民生活を実現するため、幅広い層の県民に文学の魅力を広く伝えていく。展示観覧、行事参加、閲覧利用、会議室利用など様々な県民のニーズに対応し、利用の促進を図る。また、IT化、キャッシュレス化など技術革新への対応も進め、新型コロナウイルス感染症拡大防止にも配慮した直接の来館だけではなく多様な利用形態や、利便性の向上を図る。

No. 1 利用者数（展示・閲覧・会議室利用）、（ ）内はオンラインによる展示関連動画等閲覧数

令和2年度 実績（見込）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
13,900人 (2,500件)	48,300人 (2,600件)	48,400人 (2,700件)	60,400人 (2,800件)	60,600人 (2,900件)	60,800人 (3,000件)
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	展覧会観覧者、主催行事参加者、ホール・会議室の利用者、閲覧室利用者に対して質の高いサービスを提供し、更に多くの県民が文化芸術により、ゆとりと潤いを実感できるよう、あらゆる世代を対象とした「開かれた文学館」として利用機会増を図る。また、オンラインで展示関連のイベント動画、フォトムービー等を公開することにより、来館が叶わない方にも文学館の魅力を伝える。				
目標値の設定根拠	指定管理第4期内でエレベータ更新が予定されているが、不確定要素が多かったため、指定管理プロポーザル時には従来の目標値を基準に数値目標を設定した。令和2年度に設計が進捗したことから、令和3年度、令和4年度の12月～3月で大規模工事が行われると想定し、平成28年度～平成30年度の月別平均割合から算出した。				

No. 2 若年層向け行事参加者数、（ ）内はオンラインによる視聴数

令和2年度 実績（見込）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
250人 (150件)	800人 (170件)	850人 (190件)	900人 (210件)	950人 (230件)	1,000人 (250件)
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	文学館を拠点とした中高生向け行事を充実させることで、若年層集客の取組を更に強化し、将来にわたる文学館利用者の育成を図る。				
目標値の設定根拠	令和3年度以降は、特に未就学児の割合が多くなると見込まれる「かなぶんキッズクラブ」事業について、定員を減らすなど感染症対策の強化が必要になると思われる。令和元年度の実施回数をもとに、「かなぶんキッズクラブ」ではおおむね半数を定員とし、オンラインでの視聴で定員減を補う形とした。神奈川県高等学校文化連盟関連事業では実績を目標値とした。令和4年度以降徐々に回復する見込みとし、令和6年度には令和元年度実績と同程度までの回復を目指したい。				

No. 3 パネル文学展実施校数、()内はオンラインによるパネル展利用数					
令和2年度 実績(見込)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
16校 (5件)	16校 (7件)	16校 (7件)	16校 (7件)	16校 (7件)	16校 (7件)
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	パネル文学展の巡回活動を通じ、教育現場への文学の普及と文字・活字文化の振興を図る。				
目標値の設定根拠	令和2年度までの目標値と同数とする。パネル文学展は希望の時期やパネルの種類が重なりやすく、実施校数を伸ばすことが困難な中で、活用研修会や高文連でのつながりを通じ地道に利用を伸ばしてきた。今後の文化祭等学校におけるイベント開催の方向性が見えないため、デジタル版を整備しつつ、まずは従来の目標達成を目指したい。				
No. 4 HPアクセス件数					
令和2年度 実績(見込)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
127,000件	127,500件	128,000件	172,000件	172,500件	173,000件
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	事業についての情報を広く発信するとともに、作家のフォトムービー、講演会の音声公開などのコンテンツを充実させる。また、アーカイブ、所蔵資料検索等を通じ、所蔵資料の活用を図る。				
目標値の設定根拠	令和2年度前半は、感染症拡大防止のための休館中、ホームページの閲覧が例年に比べ落ち込んだ。展覧会やイベントの情報を得る目的でホームページ閲覧をする利用者が多いものと思われる。今後も外出自粛傾向が続くと考えられることから、工事による休館の見込まれる令和3年度、令和4年度は令和2年度見込みから微増とし、令和5年度以降は平成28年度～令和元年度の平均と令和2年度見込みの中央値から設定した。				
No. 5 「神奈川近代文学館友の会」会員数、()内はメールマガジン登録者数					
令和2年度 実績(見込)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
850人 (1,675人)	850人 (1,725人)	900人 (1,775人)	950人 (1,825人)	1,000人 (1,875人)	1,000人 (1,925人)
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	友の会会員へのサービスを通じて、恒常的な文学館利用促進を図る。				
目標値の設定根拠	令和2年度は、感染症拡大前の令和元年度末の段階で継続会員のうち650名が更新を済ませていたため、会員数の落ち込みが少なかつたものと思われる。令和3年度は、前年度の臨時休館期間の代替として会員資格を延長するため、会員数の伸びは見込み難い。感染症の状況にもよるが、令和6年度までには従来の実績であった1,000人を回復できるよう努めたい。				

【収支健全化に向けた経営改善】

(総括的目標)

今後も経費を抑制しつつ県民のニーズに応じた展覧会やイベントを開催し、幅広い層の県民に文学の魅力を広く伝えていくという館の使命を果たすため、年齢層が偏らないよう配慮しつつ集客増による収入の回復を目指したい。

(1) 収入増に向けた取組

人気の作家の文学展や、時宜にかなった企画を開催することで動員を図り、観覧料の増収に努めたい。また、会議室利用については、自主事業との調整を図り利用件数の継続的な確保に努めるとともに、高齢者やIT弱者に配慮し、電話対応を積極的に行うことで利用の促進を図りたい。

展覧会図録の販売、講演会受講料など事業収入については、より魅力的な図録の制作、著名作家・俳優による講演会、朗読会などの開催によって増収を図り、安定した事業予算の確保を目指したい。

No. 1 利用料金収入 (単位：千円)

令和2年度 実績 (見込)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
2,500	8,059	8,259	8,559	8,859	9,259

目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	維持費における安定的な事業予算の確保を図る。
---------------------------	------------------------

目標値の設定根拠	令和2年度は感染症拡大防止のための臨時休館により大きく落ち込む見込みとなっている。令和3年度以降も高齢者層を中心に外出の自粛傾向が続くと見込まれる。加えて、令和3年度、4年度の12月～3月にはそれぞれ、大規模工事に対応した長期休館が必要となるため、所管課と調整の上、第4期指定管理プロポーザルでの収入予算を下方修正し、令和7年度には提案額に達することを目指したい。
----------	--

No. 2 事業収入 (単位：千円)

令和2年度 実績 (見込)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
1,200	5,530	5,830	6,130	6,430	6,630

目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	事業費における安定的な事業予算の確保を図る。
---------------------------	------------------------

目標値の設定根拠	令和2年度は感染症拡大防止のための臨時休館により大きく落ち込む見込みとなっている。令和3年度以降も高齢者層を中心に外出の自粛傾向が続くと見込まれる。加えて、令和3年度、4年度の12月～3月にはそれぞれ、大規模工事に対応した長期休館が必要となるため、所管課と調整の上、第4期指定管理プロポーザルでの収入予算を下方修正し、令和7年度には提案額に達することを目指したい。
----------	--

(2) 経費削減に向けた取組

(総括的目標)

感染症対策としての換気に配慮しつつ、引き続き照明のLED化、空調機器の効率化などに継続的に取り組み経費削減を目指す。電気料金の削減を図ると同時に、温暖化防止など環境に配慮した運営を心掛けていきたい。

No. 1 年間電力使用量 (単位: kwh)

令和2年度 実績 (見込)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
774,000	781,300	781,100	780,900	780,700	780,500
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	SDGsの「目標13気候変動に具体的な対策を」を実現するため温室効果ガスの排出量削減を図る。				
目標値の設定根拠	令和3年度以降も平成28年度～令和2年度目標に引き続き年200kwhの使用量削減を目標とする。令和2年度見込みは、感染症拡大防止のための臨時休館により、電力使用量は例年より低い水準となっているが、令和3年度以降は感染症対策として空調機での外気取込量を増やし換気を積極的に行うため、電力使用量の増加が見込まれる。				

No. 2 年間電気料金 (単位: 千円)

令和2年度 実績 (見込)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
17,300	19,350	19,300	19,250	19,200	19,150
目標項目の選定理由 (達成により生じる効果)	施設維持管理経費の削減を図る。				
目標値の設定根拠	令和3年度目標は令和2年度の目標19,000千円(消費税8%時に設定)を税率10%換算にしたもの。令和3年度以降は感染症対策として空調機での外気取込量を増やし換気を積極的に行うため、電気料金の増加が見込まれる。令和2年度見込みは、感染症拡大防止のための臨時休館により、例年より低い水準となっている。				

* 今後の県からの財政的支援(又は損失補償残高)の見込み

補助金(委託料)見込額

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
参考(指定管理料) 410,043千円	参考(指定管理料) 410,043千円	参考(指定管理料) 410,043千円	参考(指定管理料) 410,043千円	参考(指定管理料) 410,043千円

5 その他特記事項

神奈川近代文学館に係る指定管理期間が令和3年度から5年間であるため、当該期間に合わせて経営改善目標を令和7年度まで設定した。令和3年度、4年度に見込まれているエレベータ更新工事に対応するための休館に伴う利用料金の減収については、所管課と調整を行いたい。